

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

第37期ビジネスレポート
2012年7月1日～2012年12月31日(第2四半期)



ユビテックはチャレンジ25
キャンペーンに参加しています。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用して印刷しています。



証券コード：6662

株式会社ユビテック

当第2四半期までに行った活動についてご紹介させていただきます。

2012/07/03

ユビテックソリューションズ、アプリケーション開発保守業務をサポートするシステム解析ツール「REVERSE PLANET®」を発売

7月

8月

9月

2012/09/03

「Ubiteq Android ユーザビリティ評価サービス」、「Ubiteq Android アプリケーション脆弱性検証サービス」をサービスイン → Topics 1

2012/09/12

「Ubiteq Webサービスサイトを公開」～ユビテックの各種サービスを独自Webサイトでご紹介・ご利用・ご決済が可能～ → Topics 2

2012/09/26

「賢い企業のスマート節電ガイドブック」出版
～ITで実現する、無理をしない節電方法をご紹介～
→詳細記事はP4に

2012/10/03

「LiveE! プロジェクト第1回サイエンスコンテスト」開催
～ユビテックが協賛した環境情報の有効活用コンテスト結果発表～ → Topics 3

2012/10/10

ユビテックソリューションズ、手作業によるシステム上の作業を自動化する業務代行システム「Biz-Robo」を発売

10月

2012/11/29

「BE GREEN Next」国際標準通信規格への適合を確認
～東大グリーンICTプロジェクト IEEE1888通信装置の接続試験に参加～ → Topics 4

2012/12/21

「第7回ファシリティマネジメント大賞（JFMA賞）」受賞
～「UGSを活用した省エネ活用事例」で「技術賞」受賞～ →詳細記事はP5に

11月

12月

Topics 1

「Ubiteq Android ユーザビリティ評価サービス」、「Ubiteq Android アプリケーション脆弱性検証サービス」をサービスイン

Androidスマートフォンの普及に伴い、身元が不確かなアプリのインストールによる被害報告が増えていることから、ユーザーに安心してアプリをご利用頂けるよう、脆弱性の検証と改善のご提案を行う「Ubiteq Android アプリケーション脆弱性検証サービス」を開始しました。

15年に亘る通信キャリア受け入れ評価によって培われた確かな評価品質、お客様の必要ニーズに合わせた3つのレベルの検証メニュー、セキュリティリスクが図解入りで示された脆弱性診断レポートを提供し、リスク回避方法についても具体的にご説明します。

また、仕様書や設計書に基づくテストだけでは、ユーザーの利用シーンに対する試験としては不十分な点も多く、スマートフォン利用時のトラブルやクレームは増大傾向にある現在、長年に亘って蓄積された評価事例を分析した「Ubiteqユーザビリティ評価シナリオ」を作成し、活用することで短期間で重大な不具合を数多く検出し、お客様の開発コスト低減と品質向上に貢献する「Ubiteq Android ユーザビリティ評価サービス」も開始しました。

Topics 2

「Ubiteq Webサービスサイトを公開」～ユビテックの各種サービスを独自Webサイトでご紹介・ご利用・ご決済が可能～

2012年9月より、当社が独自に開発し、販売している各種サービスのご紹介を行うサービスサイト、ブログ、Facebook、Twitterでの情報発信を本格的に開始しました。

1. サービスサイトをオープンしました。

URL : http://service.ubiteq.co.jp/utq_service/index.html

当社のオフィシャルサイトは、IRを中心としておりますので、事業・サービスをご紹介するサイトとして立ち上げました。オンライン決済によるネットサービスサイトとしてもご利用頂けます。

2. ブログによる技術情報の積極的発信を始めました。

URL : <https://ubtqsv.wordpress.com/>

省エネに関する内容の連載、スマートフォンの使い方、Android脆弱性事例、スマートフォンの満足度向上のための情報等を掲載しております。

3. Facebook、Twitterの利用を始めました。

<https://www.facebook.com/UBITEQ>

<https://twitter.com/ubtq>

新たなサービス内容等をタイムリーに発信して参ります。

Topics 3

「LiveE! プロジェクト第1回サイエンスコンテスト」開催
～ユビテックが協賛した環境情報の有効活用コンテスト結果発表～

当社は、気象情報や都市活動関連情報等の環境情報の収集・活用を推進する「LiveE! プロジェクト」(主査: 東京大学教授 江崎 浩氏)の取り組みに2005年の設立時より参画しており、各地に設置されたセンサで得た種々の情報を地図上に可視化する仕組みを提供しています。



今回、当社協賛による「LiveE! プロジェクト第1回サイエンスコンテスト」をLiveE! シンポジウム2012において開催し、LiveE! サーバの提供するセンサデータをいかに有効に活用して成果をあげたかを競い合いました。一次審査を勝ち抜いた9組の高校生、大学生、社会人チームが、各ブースにおいてデモンストレーションやポスターセッションを行い、審査の結果、広島市立広島工業高校の「車搭載式移動型センサMobile Environment Smart Sensorsの開発」が最優秀賞(ユビテック賞)を受賞し、当社社長 荻野 司より、トロフィーと賞状ならびに研究奨励金が授与されました。

Topics 4

「BE GREEN Next」国際標準通信規格への適合を確認
～東大グリーンICTプロジェクト IEEE1888通信装置の接続試験に参加～

東大グリーンICTプロジェクト(代表: 東京大学教授 江崎 浩氏、以下「GUTP」)が平成23年3月より実施している国際標準通信規格IEEE1888の相互接続検証において、当社が開発した「BE GREEN Next」のIEEE1888通信機能が同通信規格に適合していることを確認しました。

この相互接続検証は、IEEE1888を搭載した他社システムとの通信の互換性を確認するもので、広範囲な電力削減を実現するシステム構築に繋がる活動であると位置付けています。

IEEE1888は平成23年2月2日に正式承認された「スマートコミュニティ」や「ビルエネルギー管理システム」等向けの国際標準化されたオープンな通信規格で、中日協働で標準化を進め、GUTPが技術仕様の面で大きく貢献しており、当社も活動の中心メンバーとなって標準化を推進して参りました。

当社は「BE GREEN Next」にIEEE1888を搭載して検証に参加し、同通信規格に適合し、今回参加した他社のシステムとの接続が可能であることを確認しました。

「BE GREEN Next」にIEEE1888を標準搭載し、製品化することで、電力削減や電力の見える化等のソリューション提供を海外市場の開拓にも繋げられると考えています。

ユビキタス技術を磨き、世界に貢献出来る品質を持った 「人に役立つ」 自社製品開発とサービスの提供を行って参ります。

株主の皆様には格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
第37期も引き続き厳しい事業環境となっておりますが、グループ全体によるローコストオペレーション体制を維持しながら、環境ソリューションを主体とした自社開発製品や自社サービス事業を着実に進めております。

特に、「Ubiteq Green Service (UGS)」を進化させた省エネソリューション「BE GREEN Next (BGN)」につきましても、「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を実現する製品として、代理店や顧客との連携をより強化し、満足度の向上と機能強化のための更なる開発投資及び販売推進に注力しております。

BGNは、「第7回ファシリティマネジメント大賞」（主催：公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会）における「技術賞」、「平成24年度省エネ大賞」（主催：一般財団法人省エネルギーセンター）における「省エネルギーセンター会長賞」を受賞し、「ITによる社会の省エネルギー」に貢献したソリューションとして高い評価を頂いております。拡販の立ち上がりには引き続き時間を要しておりますが、昨年9月には省エネ・節電に関連する情報をまとめた書籍「賢い企業のスマート節電ガイドブック」を出版する等商品PRにも一層力を入れております。販売戦略を強化し、本年も引き続き粘り強く主力事業として育てて参りたいと考えております。

本年はITによる新たなカーソリューションサービス、スマートフォンへの新たなセキュリティサービスをはじめとした新規事業の展開により一層力を入れると同時にブログ、Facebook、TwitterなどのSNSメディアを積極的に活用した情報発信を行い、当社のサービスをより多くの皆様へ知って頂けるよう努力して参ります。

ユビテックは「人を感じて動く、人に合わせて動く」ユビキタス技術を駆使することで「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を実現する「省エネソリューション」や「カーソリューション」を提供し、経済再生への一端を担って行きたいと考えております。

外部環境は引き続き大変な状況が続くと予想されますが、夢のある、そして、社会に「有難がられる」、「尊敬される」会社となるために、頑張っていくと考えております。

今後も当社の企業理念に従い、引き続き社員一丸となり更なる成長に向け努力して参りますので、一層のご支援・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

企業理念

「次世代ユビキタス技術の創造に挑戦」
「技術と顧客志向」



代表取締役社長 荻野 司

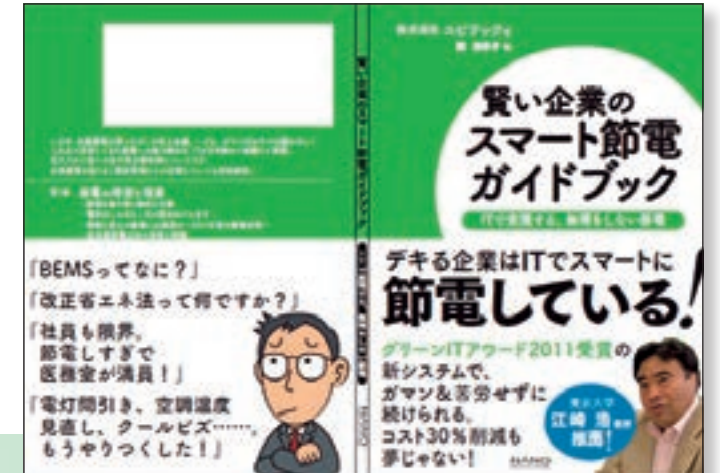
「賢い企業のスマート節電ガイドブック」出版 ～ITで実現する、無理をしない節電方法をご紹介します～

「さらにもう一段の節電成果をあげたい」、「手間をかけずにスマートな節電がしたい」といった問題意識をお持ちの総務部門の方々、節電担当の方々向けに2012年9月「賢い企業のスマート節電ガイドブック」を出版しました。

東日本大震災の影響による電力不足により、「節電」の重要性が増し、節電対策が企業価値を左右する時代になっていきます。一方で、多くの企業において、節電は「我慢」や「無理」を強いられ、「面倒だけれどもやらなければならないこと」というイメージを持たれているのが現状です。

本書では、改正省エネ法や東京都条例等の法制度の概要や国内における業種別・機器別の電力需要の状況、2011年夏に各企業で実施された節電への取り組みについてわかりやすく解説し、節電ポイントをまとめております。

また、「新しい節電システムの時代へ」と題して、今後求められる次世代型の節電システムとして当社が開発した「BE GREEN Next (BGN)」の見える化、自動制御等のさまざまな機能とITを使った効果的な節電方法、実際にお使い頂いているお客様の声を多数ご紹介しています。



<目次>

第一章：節電の理想と現実	第二章：新しい節電システムの時代へ	第三章：ユーザー事例のご紹介
1-1 節電を取り巻く動向と対策	2-1 求められる、次世代型節電システム	大塚商会、キャノンビジネスサポート、
1-2 電気はこんなところでも使われています	2-2 次世代型節電システムはこう使われる	キャノンマーケティングジャパン、
1-3 我慢と労力の節電には限界が ～2011年夏の節電対策～	2-3 待ち望まれていた次世代の節電システム 「BE GREEN Next」	シー・ティー・ワイ、静岡大学、
1-4 従来型節電方法の効果と課題	2-4 「BE GREEN Next」はここが違う	電気通信大学、東京電機大学、
1-5 独自の努力で20～30%の節電も達成！ ～各業界の節電対策～	2-5 「グリーンITアワード2011」を受賞！	山口病院、ユビテック
	2-6 「BE GREEN Next」のさまざまな機能	

「BE GREEN Next (BGN)」の受賞歴一覧

ユビテックのBE GREEN Next (BGN) を活用した省エネ活用事例が2012年12月21日公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会主催「第7回ファシリティマネジメント大賞 (JFMA賞)」にて「技術賞」を、2013年1月24日一般財団法人省エネルギーセンター主催「平成24年度省エネ大賞」にて「省エネルギーセンター会長賞」を受賞いたしました。

BE GREEN Next (BGN) のこれまでの全受賞歴をご紹介します。

1 平成24年度省エネ大賞「省エネルギーセンター会長賞」受賞！

主催：一般財団法人省エネルギーセンター、後援：経済産業省 (2013.1.24)



「省エネ大賞」は、優れた省エネ活動事例や技術開発等による先進型省エネ製品を表彰し、省エネルギー意識の浸透、省エネルギー製品の普及促進等に寄与することを目的としています。

省エネ活動のピーク電力抑制・ピークシフト等の取り組みを含めた、Ubiteq Green Service (現：BE GREEN Next) の機能と自社活用事例を紹介し、有効な省エネへの取り組みが行われている企業であり、中小規模ビルへの波及も期待出来るとして「省エネ事例」部門にて「省エネルギーセンター会長賞」を受賞いたしました。



2 第7回ファシリティマネジメント大賞「技術賞」受賞！

主催：公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会 (2012.12.21)



ファシリティマネジメント (FM) 大賞は国内におけるFMの普及・発展を目的とし、FMIに関する優れた業績及び功績のあった組織と個人を表彰しています。

2011年度の稼働実績において、前年度比42%の節電を実現した「自社開発のITによる省エネシステムUbiteq Green Service (現：BE GREEN Next) を活用した省エネ活用事例」を紹介し、FMIに関する新しい手法、技術の取り組みが行われている企業として「技術賞」を受賞いたしました。

●審査委員の評価ポイント

IT活用でリアルタイムに詳細な電力使用量が見える化し、既存の照明・空調設備を自動制御する次世代型の節電システムで、会議室の利用状況に応じた制御等FM的発想と、分析したいデータだけを取り出して評価し課題を明確化出来る点等が高く評価されました。

「BE GREEN Next」の特長

- ①機器を更新しなくとも、「今ある設備をITにより必要な時だけ使う」運用改善により一定の省エネ効果が得られます。
- ②BEMSがカバー出来ない中小規模ビルにも適用可能で、ITによってきめ細かな機器毎の照明・空調の制御を行います。
- ③労力が必要な人手による機器制御をITにより自動化し、継続的な節電を可能にします。



「BE GREEN Next」は
“無理のない、快適・継続出来る節電”を全面的にサポートするソリューションです。

3 グリーンITアワード2011「経済産業省商務情報政策局長賞」受賞！

主催：一般財団法人省エネルギーセンター、後援：経済産業省 (2011.10.3)



グリーンITアワードは低炭素社会実現に貢献する優れた製品・技術・活動に対して表彰を行う制度です。

Ubiteq Green Service (現：BE GREEN Next) は「段階的な省エネテンプレートの先進性、自社や他社での着実な導入実績、電力削減実績」が「ITによる社会の省エネ (byIT)」に貢献したソリューションとして経済産業大臣賞に次いで優れたものと評価を頂き、「経済産業省商務情報政策局長賞」を受賞いたしました。



4 Interop Tokyo 2011 Best of Show Award「特別賞」受賞！

主催：Interop Tokyo 2011 実行委員会 (2011.6.8)



IT導入決裁者が集う年に一度のイベント「Interop Tokyo 2011」にUbiteq Green Service (現：BE GREEN Next) を出展。

マルチベンダーに対応、SaaS型で展開されている点等が評価され、ソリューション&サービス部門「特別賞」を受賞いたしました。

●出展協賛企業(五十音順)

キャノンITソリューションズ(株)、クロスボー(株)
サンワコムシステムエンジニアリング(株)、ディーアイエスソリューション(株)
日本マイクロソフト(株)、ネットワンパートナーズ(株)
－特別協賛：LED照明提供－(株)大塚商会



当第2四半期の営業概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要などにより緩やかな回復基調となり、12月の政権交代後は円安、株価上昇が進むなど、一部に改善の兆しが見られたものの、欧州債務問題の長期化、中国をはじめとする新興国における経済成長率の鈍化、近隣諸国との関係悪化等の影響等により、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。当社グループの関連市場においても、特に大手電機メーカーの収益悪化の影響により、設備投資抑制は続き、需要回復の遅れや価格低下圧力が強まる等、全般的に厳しい事業環境となりました。このような状況の中で、引き続きグループ全体によるローコストオペレーション体制を維持する中で、顧客先企業の影響を受けにくい自社製品・サービスの開発に注力してきました。

特に、省エネソリューション事業のUGSをさらに進化させた「BE GREEN Next (BGN)」やカーソリューション事業の車載システムについては、「自然に出来てしまう、やりたくなる省エネ」を実現する製品として、代理店や顧客との連携をより強化し、満足度の向上と機能強化のために更なる先行開発投資及び販売推進に注力してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は1,336百万円（前年同四半期比25.5%減少）、営業損失は83百万円（前年同四半期は営業利益127百万円）、経常損失43百万円（前年同四半期は経常利益119百万円）、四半期純損失は32百万円（前年同四半期は四半期純利益59百万円）となりました。

セグメント別の概況

電子機器事業

電子機器事業は、紙幣鑑別ユニット等のATM向けセンシングモジュールが中国問題の影響を受けたこと、および、カーソリューション事業については車載端末の納入時期のずれが発生したことにより、前年同四半期比減収減益となりました。現在、センシングモジュールおよびカーソリューションシステムは競争力強化のための次機種開発を進めており、新規量産のための開発案件にも着手しております。また、コスト削減については業務全体を見直しながら関係協力会社にもご協力頂き、仕入コストや外部委託費用についての削減を継続して進めております。

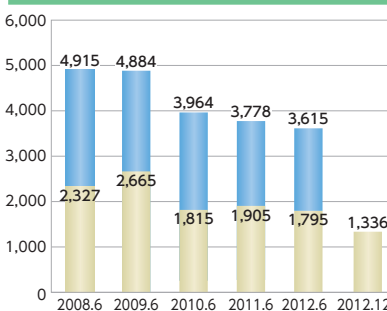
この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は809百万円（前年同四半期比32.1%減少）、セグメント利益は84百万円（前年同四半期比69.4%減少）となりました。

モバイル・ユビキタス事業

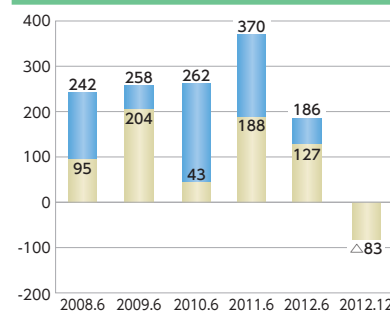
モバイル・ユビキタス事業については、子会社のユビテックソリューションズは堅調に推移したものの、携帯電話評価業務の売上が大幅に減少したことにより、前年同四半期比減収減益となりました。携帯電話評価業務については、Androidを実装した端末・アプリケーションにおけるユーザビリティ評価や脆弱性検証のサービスを開始し、新分野への事業展開を推進していきます。省エネソリューション事業については売上貢献にはいたっておりませんが、12月には「第7回ファシリティマネジメント大賞 (JFMA賞)」において「技術賞」を受賞し、BGNの省エネに対する有効性が認められましたので、これまでの受賞歴も生かし拡販につながるよう活動を進めています。また、営業外収益として計上されるNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の助成金を活用しながら、機能強化のための研究開発投資を引き続き進めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は527百万円（前年同四半期比12.6%減少）、セグメント損失は16百万円（前年同四半期はセグメント利益2百万円）となりました。

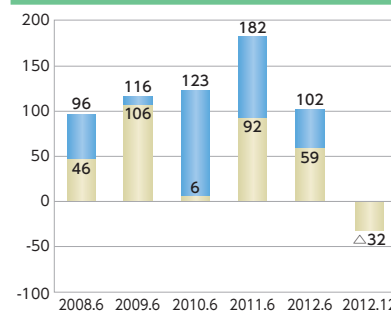
売上高 □ 通期 ■ 第2四半期 (百万円)



営業利益 □ 通期 ■ 第2四半期 (百万円)



四半期(当期)純利益 □ 通期 ■ 第2四半期 (百万円)



第2四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2012年6月30日)	当第2四半期連結会計期末 (2012年12月31日)	前連結会計年度 (2012年6月30日)	当第2四半期連結会計期末 (2012年12月31日)
資産の部				
流動資産	3,897,724	3,451,856		
現金及び預金	2,584,692	2,446,189		
受取手形及び売掛金	1,184,688	814,152		
たな卸資産	53,241	124,297		
その他	75,102	67,215		
固定資産	226,591	212,684		
有形固定資産	75,206	81,569		
無形固定資産	14,309	12,914		
投資その他の資産	137,075	118,199		
資産合計	4,124,316	3,664,540		
負債の部				
流動負債	673,324	288,332		
固定負債	58,148	52,286		
負債合計	731,472	340,618		
純資産の部				
株主資本	3,352,979	3,278,543		
資本金	880,794	881,077		
資本剰余金	594,696	594,979		
利益剰余金	1,952,962	1,877,961		
自己株式	△75,474	△75,474		
その他の包括利益累計額	△13,378	△14,437		
新株予約権	32,797	38,359		
少数株主持分	20,445	21,455		
純資産合計	3,392,843	3,323,921		
負債純資産合計	4,124,316	3,664,540		

第2四半期連結損益計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (2011年7月1日から 2011年12月31日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2012年7月1日から 2012年12月31日まで)	前第2四半期連結累計期間 (2011年7月1日から 2011年12月31日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2012年7月1日から 2012年12月31日まで)
売上高	1,795,169	1,336,925		
売上原価	1,353,848	1,125,845		
売上総利益	441,320	211,079		
販売費及び一般管理費	314,146	294,485		
営業利益	127,173	△83,405		
営業外収益	2,121	40,639		
営業外費用	9,725	877		
経常利益	119,569	△43,643		
特別利益	—	—		
特別損失	2,591	1,469		
税金等調整前四半期純利益	116,977	△45,113		
法人税、住民税及び事業税	38,209	8,259		
法人税等調整額	17,982	△22,270		
少数株主損益調整前四半期純利益	60,785	△31,101		
少数株主利益	1,133	1,028		
四半期純利益	59,652	△32,130		
営業活動によるキャッシュ・フロー	△343,463	△127,517		
投資活動によるキャッシュ・フロー	74,157	10,460		
財務活動によるキャッシュ・フロー	△36,965	△42,355		
現金及び現金同等物に係る換算差額	△9,029	18,909		
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△315,301	△140,502		
現金及び現金同等物の期首残高	1,671,075	1,434,692		
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,355,774	1,294,189		

第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

■ 会社概要

商号

株式会社ユビテック
Ubiteq, INC.

設立

1977年(昭和52年)11月17日

所在地

〒141-0031
東京都品川区西五反田一丁目18番9号
五反田NTビル

資本金

881,077,066円

金融商品取引所

大阪証券取引所(ジャスダック)

会計監査人

有限責任 あずさ監査法人

証券コード

6662

従業員数

129名(連結)

■ 役員

代表取締役社長	荻野 司
常務取締役	明石 直人
取締役	白木 道人
取締役	野方 孝之
取締役	徳田 英幸 ※1
取締役	江崎 浩 ※1
取締役	梁瀬 行雄 ※1
取締役	錦織 雄一 ※1
取締役	林 雅弘
常勤監査役	平田 満
監査役	小林 稔忠 ※2
監査役	与謝野 肇 ※2
監査役	高橋 通 ※2

※1 徳田 英幸氏、江崎 浩氏、梁瀬 行雄氏、錦織 雄一氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。

※2 小林 稔忠氏、与謝野 肇氏、高橋 通氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

■ 株式情報

発行可能株式総数	520,000株
発行済株式総数	144,340株
株主数	3,007名

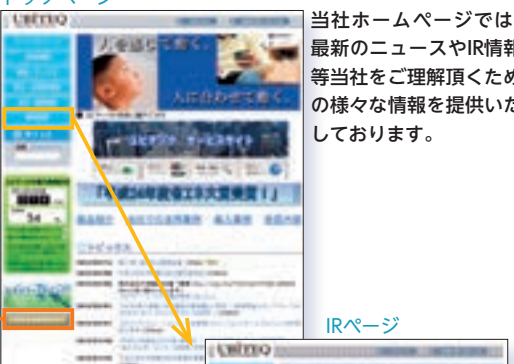
■ 大株主の状況

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
オリックス株式会社	85,272	59.65
パナソニック株式会社	14,400	10.07
荻野 司	2,858	1.99
株式会社サン・クロレラ	1,140	0.79
糸谷 輝夫	1,061	0.74
松井証券株式会社	645	0.45
平田 満	633	0.44
明石 直人	549	0.38
市嶋 朋子	500	0.34
土屋 延寿	485	0.33

※上記のほか当社所有の自己株式1,400株があります。

● ホームページのご案内 ●

<http://www.ubiteq.co.jp/>
トップページ



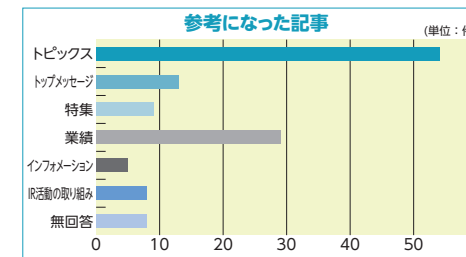
当社ホームページでは、最新のニュースやIR情報等当社をご理解頂くための様々な情報を提供いたしております。

<http://www.ubiteq.co.jp/ir/index.html>

IR活動の取り組み

株主アンケートについて

第36期ビジネスレポート(2012年9月発送)に同封させて頂きました株主アンケートにご協力頂き、誠にありがとうございます。温かい励ましのお言葉や厳しいお言葉を頂くことができました。皆様から頂きましたご意見を真摯に受け止め、これからも社員一丸となり、頑張ってお参ります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。頂いたご意見の中から、一部をご紹介させていただきます。



株主様の声

- 株価の動きがにぶい。(60代男性)
- これからも貴社の事業に期待し、楽しみにしております。(50代女性)
- 会社名はユビテックですので、このユビキタス社会に応じたものと思います。新製品が期待出来る名前です。気に入っています。(70代男性)
- 売上、利益等年々低下傾向が気になる。未来不安が見え隠れしていることが感じられる。レポート等そんなに立派なものでもなくともより経費節減せよ。もう少し未来を見ずして関連分野積極推進を望む。(70代男性)
- 方向性は間違っていないと思いますがあまりにメリハリが無く、大人しい。覇気が欲しい。(60代男性)
- 業績を上げて株価を元に戻してください。将来性を期待しています。(70代男性)
- 一般、外部に対してもっと積極的にIR活動を望む。(株価重視対応) (60代男性)
- マインドとポリシーがいい。営業力を強化して、UGSを広めて収益に反映させて欲しい。(40代男性)
- 株価への意識を常に持って下さい。(50代男性)
- 積極的経営を！(60代男性)
- 経済が上昇していない中、そこそこの業績だが、もの足りない。利益確保をお願いします。(40代男性)
- 情報が入りにくい。インターネット以外で個人にもジャストインタイムで情報が伝わるように。継続的に成長を期待しています。これからの事業をさらに伸張するよう。(無回答)

■ 株主メモ

事業年度	毎年7月1日～翌年6月30日	公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.ubiteq.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)
期末配当金受領株主確定日	毎年6月30日		
中間配当金受領株主確定日	毎年12月31日		
定時株主総会	毎年9月下旬		
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)		

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。